



マシンがセラミックスを削り終わると、ポロツと歯が落ちる音がする。取り出してみると人工の白い歯ができています。これは夢物語ではなく現実の話。

CAD/CAM(コンピューターを利用した製品の設計と加工のシステム)が歯科技工に应用されて十年以上が経過する。ここ数年は急速に広まってきた。今まで铸造性や強度に問題があり応用できなかったチタン、ジルコニア、ガラスクラウンなどが、削りだすこ

多様な材料で歯 可能に

□□ 14 □□

とで利用可能になった。これらの材料はアレルギーや審美的領域で非常に優位な材料と言える。

また豊富にあり、システムが普及すればあまり高価なものにはならない。現在保険治療で多く使用される金、銀、パラジウムは、金属の高騰で意外と高い。前回の保険改正での点数アップ分は簡単に金属の高騰で消えたと言われている。

CAD/CAMでの製作方法は、支台となる歯牙をカメラで光学印象し、コンピューター上で加工切削する。まだ人間の手を加える必要があるが、それも次世代では相減ってくるだろう。

むしろ人間が作製した歯牙より機能的で、優れている。人種による歯牙の違いを表現でき、自分の天然歯の情報から簡単に自分に合った歯を造れるようだ。歯科技工もデジタルの時代に変化している。